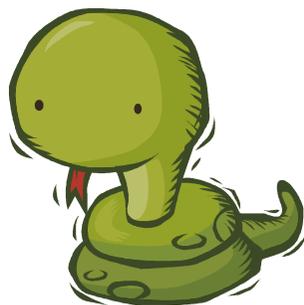


図書館だより No. 9

平成 25 年 1 月 31 日発行

2013年が始まって早1ヶ月。みなさんは好調な滑り出しで2013年を過ごすことができているでしょうか。今年1年もみなさんにとって良い年となりますように。そして、今年もまたたくさんのお本と出会ってください。今年の大河ドラマ『八重の桜』の主人公 新島八重さんに関連した本も去年、紹介した『幕末銃姫伝』を始め、色々揃えています。その他にも、『夜行観覧車』や『まほろ駅前番外地』など、本が原作となっている冬の新ドラマもたくさんありますので、ドラマを観て興味を持った人は本も読んでみてください。



さて、明日からは2月。2月には、みなさんがとっても盛り上がるイベントが待っていますね。今年のバレンタインも手作りのお菓子を作る予定の人がたくさんいると思いますが、何を作るかはもう決まりましたか。図書館では展示コーナーにてバレンタインにぴったりのレシピ本やラッピングの本を展示しています。毎年恒例となっていますが、いつもレシピ本はあっという間にみんな借りられていくので、図書館で何かいい本を探そうと考えている人は早めにチェックにくることをおすすめします。

今年は何を作ろうか*

596-サ 『ほんとうに美味しい生地で作るチョコレートレシピ』 佐藤ひろ子 || 著 朝日新聞出版
バレンタインにいつもよりちょっと凝ったお菓子を贈りたいなという人におすすめ。単に製菓用のチョコレートを使うのではなく、作るお菓子に合わせて、チョコレートのカカオ含有量にもこだわっているのが、より本格的な仕上がりが期待できます。チョコレートを変えると味にどんな変化があるのか、実際に作って感じてみてください。また、ホワイトチョコレートで作るガトーショコラやココア味のマシュマロなど、どんな味なんだろうと想像するだけでワクワクしてくるレシピも載っています。

メッセージカードにもこだわってみよう*

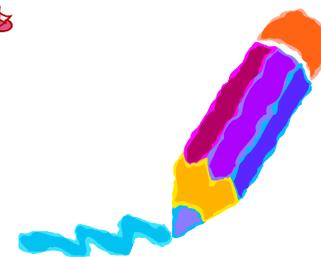
754-セ 『かわいい手紙コラージュの本』 誠文堂新光社

バレンタインに作ったせっかくの手作りお菓子だから、もうひと手間加えて、手作りカードを添えて贈りませんか。この本には、紙の種類を変えたり、形を変えたりだけでなく、糸で縫ってみたり、綿を入れて立体にしたり、様々な工夫の仕方が載っています。簡単に作れるものから、凝ったものまであるので、渡す相手にはどれがぴったりか考えながら、作るカードを決めてみてください。一度作り始めると、楽しくなって、どんどん作りたくなってしまいかも！？作り慣れてきたら自分でアレンジを加えるのも良いですね。

メッセージカードを作ろう

左で紹介した本を読んで、手作りカードに興味を持った人のために、今年のバレンタインは展示のほかに、メッセージカード制作コーナーを開設します！！

マスキングテープや色々な柄の紙、スタンプなどの素材を使って、とっておきのカードを作ってみましょう。使う素材は図書館に用意してありますので、放課後ちょっと時間がある時などに図書館に立ち寄って、作ってもらえたらと思います。友だちと楽しく作るのもよし、ひとりで気合入れて作るのもよし、工夫を凝らして、オリジナルの素敵なカードを完成させてください。出来上がったカードは、もちろん持ち帰ることができます。みなさんそれぞれ、目的のシーンで活用してください。



3学期も読書会&おはなし会を開きます

読書会

*日時

2月7日(木) 16:10~

*作品:

『阪急電車』

有川 浩 || 著 幻冬舎

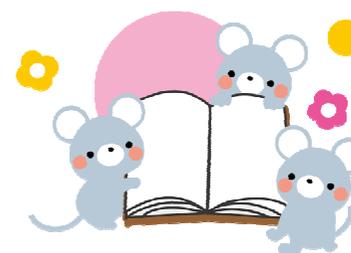
おはなし会

*日時

2月21日(木) 16:10~

*テーマ

さよなら



2月の図書館は読書会におはなし会とイベントが盛りだくさんです。読書会とおはなし会、どちらも3年生にとっては最後の回となりますので、「今まで興味はあったけど、出ないままだったな」という人も悔いのないようぜひ参加しにきてください。読書会へ参加する人は2月6日(水)までに図書館カウンターへ声をかけにきてください。

図書館の閉館について

2月2日(土) * 終日閉館

2月8日(金) * 17時半閉館



上記のとおり記念館の閉館に伴い、図書館は2月の2日間、変則的に閉館をします。学習等で残る予定の方は校舎の自習室を利用してください。



1冊の本から繋げよう

今月の1冊は…

今月16日に発表された第148回直木賞の受賞候補に著書『ふくわらい』がノミネートされた西 加奈子さん。今回は西さんの著書の中から、映画化され、2月2日(土)より全国ロードショーが始まる『きいろいゾウ』から本を繋げていきます。この本には『きいろいゾウ』という絵本が登場しますが、この絵本はその後、実際に西さん本人が絵をつけ、絵本として出版されました。そちらも合わせて読んでみてください。

913.6-ニ 『きいろいゾウ』 西 加奈子 || 著 小学館

武幸 歩、通称ムコさん。妻利愛子、通称ツマ。冗談みたいな組み合わせのふたりが結婚して夫婦になった。ふたりが暮らすのは田舎の自然の中。ちょっと変わっているけど、優しい隣人たちに囲まれ、何も無いけど、賑やかで満ち足りた暮らしをふたりは送っていた。ムコの隣にはいつもツマがいて、ツマの隣にはいつもムコがいた。だけど、ムコは小説を書きながら、ツマは自然や動物のおしゃべりを聞きながら、自分の内にあるとらえようのない何かをずっと抱えていた。

そこに、一通の手紙がムコのもとへ届いた。手紙を読んだムコはかつて暮らしていた東京へ行くことを決意する。昔、恋をした女性に会うために。ひとり、ムコの帰りを待つツマ。幸せに暮らしていたはずのふたりに試練の時がやってきたのだ。ふたりの絆はこれからも続くのだろうか。

合間に出てくるきいろいゾウの物語が、どんな風にムコとツマの物語に結びついてくるのか想像しながら読んでみてください。



『きいろいゾウ』 キーワード1

“絵本” ～物語の中に登場する絵本～

913.6-マ 『天国の本屋』 松本 淳+田中 涉 || 著 新潮社

自称 結婚詐欺師のイズミは、一度も成功したことのない詐欺を成功させようと意気込んでいた。しかし、あと少しのところまで、アロハシャツを着た謎の老人に邪魔をされてしまう。挙句、鉢合わせたハイジャック犯に狙われ…。気を失ったイズミが意識を戻すと、そこにいたのは婚約者ではなく、アロハシャツの老人。名前はヤマキ。本屋を営んでいるという。散々な目にあつたイズミが文句をぶつけていると、ヤマキは仕事の話を持ち出す。それは、表向きはヘルパー、真の目的は家主に立ち退きの交渉をし、承諾させるというものだった。ギャラにつられ、ひねくれ者の家主を相手に奮闘の日々を送るはめになったイズミだが、不思議と楽しんでいる自分に気がつく。そして、口喧嘩や本の朗読を通じ、お互いが心を開き始め、優しい時間が流れていく。しかし、そこには驚きの真実も待っていた。



『きいろいゾウ』 キーワード2

“自然” ～主人公の暮らす自然豊かな場所～

913.6-マ 『西の魔女が死んだ』 梨木 香歩 || 著 新潮社

学校に行かなくなった“まい”は、休養を兼ねて、おばあちゃんの家で過ごすことになる。豊かな自然に囲まれた家で、ワイルドストロベリージャムを作ったり、タライで洗ったシーツをラベンダー畑に広げて干したり、おばあちゃんとの暮らしは、まいにとって新鮮なものだった。そこで、まいはおばあちゃんから魔女の話を知る。自分にも魔女の血が流れているかもしれないことに心を躍らせたまいは、おばあちゃんのもと、魔女の力を身につけるための修行を始める。その修業とは、精神を鍛えることであり、また、自分で決めたことをやりとげるといったものだった。

全てがうまくいっていたのに、最後にわだかまりを残したまま、おばあちゃんのもとを離れてしまったまい。2年が経ち、まいに届いたのは「西の魔女が死んだ」という知らせだった。2年ぶりに訪れたおばあちゃんの家。そこで、まいはおばあちゃんが自分へ残してくれた贈り物を見つける。



そして、

西 加奈子さんの作品を「もっと読んでみたい!!」と思った人には

913.6-ニ 『きりこについて』 西 加奈子 || 著

こっこは小学3年生の女の子。祖父母、両親、3つ子の姉という賑やかな大家族に囲まれて暮らしている。家族みんなに溺愛されながらも、こっこの好きな言葉は8歳にして、なんと、「孤独」。どうしたら孤独になれるのかと試行錯誤を繰り返しながら、毎日をとてもパワフルに生きる女の子だ。

独特の感性で世界を見、カッコいいなと思ったら、それは周りはどう言おうと、憧れの念でそれを追い求める。そんな一直線のこっこだから、時に理解されないこともある。だけど、こっこは自分の思いをまげない。そして、いつでも自分のよき理解者でいてくれる友だちがいる。自分が見ている世界とは違うものを見せてくれるクラスメイトたちもいる。その中で、孤独や他人の痛みを知りながら、こっこは少しずつ大人になっていく。

一度読むだけでもおもしろいんだけど、二度三度と読んでも味わいがある本。